

教育
広報

あきる野の教育

2022 (令和4)年7月1日 編集・発行 あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮350 ☎042(558)1111(代)



あきる野市の

GIGAスクール構想の推進と現状

あきる野市教育委員会

教育長 丹治 充

あきる野市立小・中学校では、GIGAスクール構想で謳われた校内LAN整備と児童・生徒一人一台のタブレット端末の配備について、国から前倒しでの整備方針が示されたことにより、急遽、令和2年度中に全ての整備を進め、令和3年度から活用できるようにしました。

児童・生徒は、いつでもどの教室でも、全ての教科学習にタブレット端末を使うことが可能となり、活用の場面はより広範になると思われます。

この背景には、我が国の経済発展と社会的課題解決の両立を図る「Society 5.0時代の実現」があります。子どもたち一人一人の学習の理解度やその状況の掌握、ICT（情報通信技術）の導入と有効な活用による能力・適性に合わせた学習目標の下、個に応じた学習方法や学習形態など、様々な状況を考慮した多様な学びにより、誰一人取り残されることなく、創造性を育むためのアイテ

ムとしてタブレット端末を用いた学習の推進を図るものです。

各校におけるタブレット端末を活用した授業の推進に向け、授業中のICT機器のトラブル対応や、教員や児童・生徒へのタブレット端末の機器操作支援を行うために、ICT支援員を月に3回から4回程度派遣し、相談支援体制を整えました。また、ICT機器を活用した学習は、通常の学習の場だけに留まらず、災害や今後のコ

ロナウイルス感染症をはじめとした学校の臨時休業時や緊急時においても、子どもたちの学びを止めない教育環境として重要な役割を担っています。このことから、実情に合わせたICT環境の整備も重要であると考えています。

ICTの活用は、今後、学校教育を支える基礎的な通信技術として必要不可欠となります。こうした中で、我が国の学校におけるデジタル機器の利用時間は、OECD（経済協力開発機構）38か国の中で最も少なく、PC（コンピュータ）を使った宿題に費やす時間も最下位である一方、ネット上のチャットやゲームに要する利用時間は他国を上回っていることが報告されています。しかし、学習指導要領では、情報活用能力は言語能力、問題発見能力、解決能力等と同様に学習の基礎となる資質・能力として位置付けられています。これらのことは、国際化が進む中で、自立と共生を基盤とする生きる力を育むものであり、受け身ではなく主体的に関わっていくアクティブラーニングの学習として、課題の発見や解決力を身につけるための探究的な真の学力を培っていくことに他なりません。

特に、小学校では、新たにプログラミング教育が必修化されたことで、今後の学習活動においては、ICTを積極的に活用していくことが望まれます。

このような中で、草花小学校では、あきる野市立学校研究推進校

の指定を受け、「主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用と授業」を主題として先進的な研究に取り組み、その成果を市内小・中学校に紹介しております。

また、昨年度に引き続き前田小学校が2年目の研究指定を受け、さらに今年度新たに東中学校があきる野市立学校研究推進校として、研究に取り組んでいるところです。

また、ICTを活用した取組としては、令和6年度に学習者用デジタル教科書の本格的な導入を目指しており、今年度から市立小・中学校に、外国語（英語）のデジタル教科書が配布されたことから、朗読音声を用いた外国語によるコミュニケーション能力や資質の育成に有用な活用方法の検証が行われます。理科についても、基礎的・基本的な概念や性質の理解、そして、見通しを持った観察や実験を行うことができるよう、デジタル教科書の活用方法について検証いたします。このデジタル教科書が日常的に使用されることで、児童・生徒同士の協働学習や教員と繋がる授業形態となり、より様々な学習活動の組み合わせが可能となるはずです。

市民の皆様におかれましては、是非、こうした各学校の取組について、学校公開や各種行事の発表会等を通じてご覧いただき、今後も引き続き各小・中学校の教育の充実のために、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。